

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800594		
法人名	有限会社 リーフ式千巻 長閑村		
事業所名	グループホーム 長閑村		
所在地	三重県度会郡度会町小萩610		
自己評価作成日	平成23年8月26日	評価結果市町提出日	平成 23 年 11 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800594&SCD=320&PCD=24>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 9 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ古民家を利用した、我が家を思い起こす佇まいの中、家庭的な雰囲気で居心地良く、穏やかな日々を送って頂けるように心がけている。職員の平均年齢は高いが、その分、経験豊かで、入居者様を温かく、ゆったりと受け入れることができ、ご家族からも信頼されている。又、健康管理面では主治医との連携のもと、医療ニーズの高い入居者様についても安心してお預かりできる体制が整っている。終末期ケアにも力を注ぎ、ご家族、主治医、看護職員、介護職員が連携を取りながら、安らかな最期を看取らせていただいている。今後も安心、安全、安楽を目標に、地域と一体となり地域に根ざした事業所でありたいと考えている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景と緑に囲まれた閑静な環境の下、古民家をそのまま利用した建物にはゆったりと長閑な時が流れ、心穏やかに過ごせる事業所である。畳の部屋を主としたその四方は回路式に設計され、リハビリも兼ねて居室へ行くようにできている。また、平成19年に廊下伝いに行ける4部屋が増築されている。今年2月に、運営者である父から息子に交代をしている。この若い運営者には入居者や家族からも信頼され新運営者として期待が大きく、終末ケアの取り組みにも力を入れている。又、看護師2名(内1名は管理者兼務)が医師との連携を密にとり、本人、家族、職員の安心に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、意識して実践につなげるよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら事業所としての理念をつくり、管理者はじめ職員は日常介護や会議等において実践し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。又、運営推進会議を通じて、民生委員や、老人会会長との意見交換を行い、情報を得たり、地域行事への参加を依頼している。	入居者も参加する長閑村夏祭りを催し地域の方と交流をしたり、地域の行事で椎茸栽培の「菌打ち」をさせてもらい栽培をしている。また、町の福祉まつりの招待を受け参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の認知症サポーター養成講座や介護予防教室の講師として、認知症の人の理解や、支援の方法を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の日頃の様子や事業所としての活動内容を報告している。それらに対する評価や意見を取り入れ、サービスの向上につなげている。	家族、運営者、従業者、それに地域を代表する老人会長や民生委員、町の担当者等が参加し、2ヶ月に1回開催し議事録も整備されている。会議ではサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いが行なわれ、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席をはじめ、その他連絡を密にしており、情報交換や指示を仰いだり、円滑な運営の為の協力を依頼している。	市町担当者とは、運営や制度上の疑問などいつでも意見交換をしている。特に事業所の裏の雑木林の崩落危険の件では常に相談をかけ、対策を話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい認識を持ち、拘束廃止に向けた取り組みをしている。ただし、止むを得ない場合のみ同意書を取り、記録を残し実施している。玄関や縁側は夜間のみ施錠するが、誰でも簡単に解錠できる状態にある。	身体拘束がよくないと理解しているが、骨折し歩行困難な利用者に対し車椅子を使用する際は、ずれ落ちないように拘束せざるをえないことを家族と話し合って了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で勉強会を持ち、虐待防止法について学び、十分理解している。職員は常に穏やかに接しており、事業所内での虐待は皆無であると断言できる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在その制度を必要とするケースはないが、資料にもとづき勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際 契約書及び重要事項説明書について十分説明し、理解、納得の上で署名捺印をもらっている。又、それぞれ控えを渡し、後々のトラブルに発展しないように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員と入居者が何でも話せる雰囲気や心がけており、それを運営に反映させている。又、事業所内に苦情受付の流れや、申立先を掲示し外部への意見を発信できるような環境を整えている。	「長閑村新聞」を発行し、ホームでの暮らしぶりや日常の様子を知らせている。また、家族訪問時や電話等で事ある毎に意見の収集を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや又、管理者が同一敷地内に居住しており、いつでも話し合える環境のため意思の疎通や意見交換は十分行われており、それらを反映することができる。	意見や提案は会議の時だけでなく、何時でも管理者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場の状況を踏まえて、職員が働きやすい環境整備に努め、勤務状況や個々の努力を認め、給与の見直しをするなど、やりがいをもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会や連絡協議会主催の研修会にも順次職員が参加し伝達講習を行っている。又、介護福祉士など国家資格取得のすすめや、支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは、利用者を含め相互訪問や合同の行事を企画し、交流を深めサービスの質の向上へつなげている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のため、本人からの聞き取りは困難な場合があるが、家族からの聴取や施設及び職員になれてきた時点で言動などから徐々に要望や不安を引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、契約締結時に意向の確認を行い、ご家族の不安なこと、求めているものを十分理解した上で、事業所としてどのような対応ができるか検討、実践し、不安なく事業所内での生活が送れるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける時点ですでにグループホームへの入所を希望されている場合がほとんどであるが、ニーズの把握や意向確認に努めている。又、担当のケアマネージャーなどと連携を取りながら情報の収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という意識を持たず一つ屋根の下で共に過ごす家族という思いで、年長者を敬い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や、健康状態などを随時家族に報告したり、毎月写真入の新聞を送るなど情報の共有に努めている。気がかりなことは共に解決方法を考えるなど家族の思いに寄り添いながら、一緒になって本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染の友達や近所の方が訪ねてきてくれたり、共にお墓参りにいくなど、大切な人との絆が途切れないように支援している。	馴染みの商店や食堂へ寿司を食べに行ったりすることがあり、これからも利用者の希望があれば可能な限り馴染みの場所の訪問を行って行きたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症レベルに差があるためコミュニケーションがとりにくいケースもあるが、職員が仲介役となり孤立することなく関わり合い、支えあえるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や在宅復帰などにより退居した場合も今後についての相談や、情報提供などを行い、又、担当ケアマネジャーと連携をとりフォローアップに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中でよい信頼関係を築きなんでも話してもらえる環境づくりを心がけている。自分の思いや希望を言えない利用者には表情や態度、フェースシートなどから把握するように努めている。	人生経験から教わることも多く、協力・支え合いの関係を築いている。会話においては一方的にならないよう傾聴を心がけ思いをくみ取り、可能な限り希望に努め、困難な場合は、今までの生活歴などから、スタッフ間や家族の方とで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りのほか、入所前の病院や施設から情報提供してもらったり、本人とのコミュニケーションの中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受け持ち制を取り入れ、職員が自分の受け持ちの入居者に対しては特に細かく、内面的な部分まで把握するように努め、他の職員に伝えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画立案前に意思確認できる方については確認を行い、その上で家族や職員と課題やケアのあり方について話し合い、プランに反映している。	利用者を担当制にしてあり、担当者が会議で利用者の状況報告後、話し合い、評価し、介護計画が作成されている。また、3ヶ月の見直しとそれ以外にも必要に応じ随時行なっている。見直した計画書は家族にも了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は実践の記録だけでなく介護者の気づきや本人の受け止め方を利用者の言葉で記録し、皆が情報を共有して介護計画を見直し、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護職である管理者が常駐しているため、24時間の健康管理、急変に対する的確な処置も可能であり、終末期の対応も可能である。家族状況も考慮し、遠方の家族にはその代行や諸手続きも含め、多岐にわたるサービスを実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるように、民生委員や区長、近隣住民の方々と連携をとり、支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人、家族の意向を大切にし、かかりつけ医を継続するケースもある。協力医療機関とは信頼関係を密にしており、定期的な受診のほか、心配事がある場合、すぐに相談できる関係にある。	全員が事業所の協力医を受診しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者を含め看護職は2名おり、特に管理者は同一敷地内に居住しているため、入居者の状態には目が届き、介護職も情報や気づきを随時報告し利用者に適切な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を医療機関に提供し、退院後に関しても関係者や家族と話し合い、情報交換や相談に努めている。又、本人が安心して治療が受けられるよう、たびたび見舞いに行き、不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の気持ちを大切にし、主治医ともよく話し合った上で、医師、看護職、介護職が連携し、安らかな最期のときを迎えられるよう取り組んでいる。	看取りの指針が作成され、入居時に利用者・家族等に対して説明し了解を得ている。看護職である管理者が常勤しているため、24時間の健康管理・急変に対する的確な判断が可能で、協力医とも相談しながら終末期の対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、看護師による勉強会をおこなったり、消防署の協力を得てAEDの使用法についての講習を受け、急変や事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をさまざまな状況〔昼間、夜間、地震、火事など〕を想定して実施している。地域のかたがたにも参加していただいている。	消防署と地域の方(6名)の協力で避難訓練を実施し、不備な点などの見直しを行なっている。又、夜間想定避難訓練や地震体験訓練等にも取り組んでいる。	事業所のすぐ裏山に雑木林があり、土石流発生の危険がありうることから、万一の災害を想定し町と話し合っているが、土留め等の対策を再度、町に働きかけて早急に安全を期して頂き、最悪孤立した場合の対策にも取り組んで頂きたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては尊厳を持った対応を常に心がけプライドを傷つけぬよう言葉遣いにも注意している。	職員と利用者の言葉のやり取りは穏やかで、一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は感じられない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の表出や自己決定が困難な利用者が多いが職員側が受容する姿勢を示し、日常会話の中で個人の意見が発信できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を優先し、1人1人のペースに沿って過ごして頂いている。見たいテレビ番組があるときは就寝時間を遅らすなど柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や衣服など本人の好みに応じたおしゃれができるよう、一緒に買物に行き好みのものを買うなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入時、取引先のパンフレットなどから希望のものや、好評だったもの等入居者の意見を取り入れたり、自分たちで作った野菜を収穫し食するなどして楽しんでいる。	季節の物、好みの物を取り入れて、家庭的な食事を楽しんでいる。利用者の重度化もあり、食事準備と一緒にできる利用者は今は一人だけである。また食事時にはその人にあった食べ方が出来るよう、時間がかかっても最後まで見守りが行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を正確にチェックし、体調が悪く摂取量の少ない利用者には補助食品を使用するなど、必要カロリーの確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方には声がけして促し、介助の必要な方には個々に応じた方法(義歯の洗浄、スワブ使用等)で口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めながら、時間的な誘導や、態度から尿意を察知し、声掛けをして自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を利用し、日頃の状況をみながら自立支援に努めている。リハビリパンツ使用者がほとんどである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立内容や水分補給に留意し体操など体を動かすことで自然排便を促している。排便の有無については確実にチェックし対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、曜日は決めているが、個々の利用者の希望により柔軟に対応している。中には入浴拒否の方もあがるがうまく誘導すれば、楽しんで入浴してもらっている。気候に合わせて回数も増やすなどの配慮をしている。	入居者の身体機能の低下に合わせ、脱衣場・洗い場・浴槽にそれぞれ3本づつ手すりを設置し、滑り止めマットを敷き工夫をしている。入浴は週2日であるが、希望により毎日入浴ができる。尚、車椅子の方がいるので、危険のないよう職員が介護対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用室は畳敷きの為自由に横になったり、ソファでくつろいだり自室で休息するなど、思いのまま自由に過ごして頂いている。就寝時間も個人に合わせて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個人記録に明記し、且つ、内容や用法、用量が変わった時は管理者から職員に口頭で伝えている。服薬については利用者の状態に合わせ、全介助、一部介助等により確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に応じ、調理の手伝いや野菜作り、又カラオケや縫物など状況や気分に応じ楽しみ事をもって生き生きと過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよいときは近所への散歩や、希望によりスーパーへの買物に同行したり、花火や蕁麻疹など、家族や地域の方の協力も得て支援している。	車椅子使用で散歩が困難な方も見えるが職員の介助で出かけている。また、車を使って蕁麻疹やみかん狩りに、家族やボランティアの協力で出かけることがある。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は管理者が行っているが、可能な方については、買物時の支払いなど出来ることは自分で出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは自由に行ってもらっており、電話も希望があればフォローをしながらかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家の為開放的な間取りになっており、共用室の障子を開ければ田畑や山野が広がり、それらの色の移り変わりで季節感を感じることが出来、居心地のよい空間が感じられる。一部くみ取り式のトイレがあったが水洗式にリフォーム済である。	古民家のがっちりした建物で、部屋全体を囲む回路式の佇まいに愛執を感じる。廊下や大きな居間のあちこちにはつばめが巣作りした跡があり、のんびりと長閑な一日を、いくつも置かれたソファに座ってゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用室は畳敷きで広く、ソファも置いてあり自由にくつろげる空間となっている。気の合った利用者同士縁側でくつろいだり、ペットの犬とたわむれたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの家具を置いたり、フローリングに畳をひいたり自分の家に住んでいるような環境で居心地良く過ごしている。	各種ベットが共通家具として設置されているが、入居時、自宅より使い慣れた馴染みのベットやタンスが持ち込まれている。どの部屋もきれいで、利用者それぞれが居心地よく過ごせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古民家の為、段差解消や手すりの設置など随所をバリアフリーとし、安全確保と自立への配慮をしている。		